

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

教材名 「未来につなぐ工芸品」「工芸品のみりょくを伝えよう」

2 単元の目標

○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。

【知識及び技能】(3)オ

◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等】B(1)ウ

◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

【思考力、判断力、表現力等】C(1)ウ

○言葉がもつよさを認識するとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。 (3)オ	・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 (C(1)ウ)	・学習の見通しをもち、魅力が伝わる文章になるよう、自分の考えに対する理由や事例との関係を明確にしたり、文章の構成や展開、その書き表し方について考えたりしながら、粘り強く書こうとしている。

4 単元について

(1) 単元で扱う言語活動と教材

本単元は、学習指導要領の指導項目、B書くこと(1)ウ「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること」、C読むこと(1)ウ「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。」の二つを受けて設定し、読み手が工芸品の魅力を感じるような文章を書き、リーフレットにまとめる言語活動を行う。

本学級の児童は、「国語の学習は楽しいですか。」「国語の学習は好きですか。」の質問に対して、いずれも約9割の児童が肯定的な回答をしている。その理由には、「皆で話し合って登場人物の気持ちを考えられるから」や「音読をしてそのときの気持ちや変化を調べるのが好きだから」といった「読むこと」の学習に関わる理由が多く挙げられていた。また、「いろんな考えが出てきて面白いから」や「グループで話し合いができるから」といった「話すこと・聞くこと」に関わる理由も多く挙げられていた。さらに、「書くこと」においても「文章を書くことが楽しいから」や「新聞などを書くのが好きだから」といった肯定的な回答が多かった。一方で書くことに関する質問「要約することは得意ですか。」に対する回答に目を向けると、肯定的な回答は、約7割にとどまっていた。これらの回答結果から、本学級の児童は、自分の思いや考えを伝え合ったり、書いたりすることは好きだが、要約して書くことに対しては、苦手意識や抵抗感を抱いている実態があると考察できる。そこで、学習のゴールにリーフレット作りを位置付ける。リーフレットは、原稿用紙に書くこととは異なり、文章だけに依存しない特徴があり、伝わりにくいところを図や写真、見出しで補うことができるため、要約に苦手意識がある児童でも前向きに取り組むことができると考える。

本単元の教材『未来につなぐ工芸品』は、伝統的な工芸品の魅力を国内外に向けて発信している筆者が、その魅力を説明し、工芸品を残すことの意義を訴える文章であり、文章の構成が捉えやすく、要約に取り組むのに適した教材である。「初め」「中」「終わり」の構成で、「初め」には工芸品の説明と筆者の工芸品への思いが述べられている。「中」には「奈良墨」や「南部鉄器」を事例に挙げて、筆者の考えを支える理由を書いている。「終わり」は、「工芸品を手に取り、感じた魅力を『一人の職人』として、周りに

伝えてほしい」という読者へのメッセージで締めくくられている。

また、『工芸品のみりよくを伝えよう』は、『未来につなぐ工芸品』の学習を踏まえて、興味のある工芸品について理由や事例との関係を明確にしたうえで書き表し方を工夫し、リーフレットにまとめるという学習に適した教材である。教科書では「博多織」を例にしており、「初め」「中」「終わり」の構成でまとめている。「初め」には、博多織の簡単な説明が書かれている。「中」では、例を示しながら、博多織の魅力を二つ紹介している。大まかな内容を示してから、その詳細が書かれており、理由や例、写真を用いて説明するという工夫がされている。「終わり」には、まとめが書かれている。三次では、このリーフレットを参考に、文章の構成を考えて自身のリーフレットをまとめ、友達と互いのリーフレットを読み合っ感想や文章のよさを伝え合う活動を行う。

一次で学習計画を立て、単元全体の学習の見通しをもたせた後、二次では、文章の組み立てを捉え、中心となる語や文を確かめて読み、要約する活動を行う。既習単元の「要約するとき」を確かめさせることで、何を取り入れ、何を省くのかを考えながら文字数の調整ができるように促していく。その際、タブレット端末（以下、ギガタブと称する）を活用することで、加除修正を行いやすくしたり、交流をしやすいしたりしていく。さらに、4人グループに分かれて、児童が書いた下書きを友達に読んでもらい、感想や意見を受け取る時間を設ける。意見交換を通して、リーフレットがより分かりやすくなったと感じることで、自信をもってリーフレット作りに取り組むことができるだろう。そして、三次では、学級全体で互いのリーフレットを読み合い、感想を伝え合う活動を行う。自分のリーフレットを読んでもらった友達が、紹介した工芸品の魅力に気付いて、褒めてくれるかもしれないという期待感、児童の主体的な学習につながると思う。

以上を踏まえ、本単元の学習を通して、以下の児童像を目指す。

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして自分の考えが伝わる文章を構成し、その魅力が伝わるよう、書き表し方を工夫することができる児童

(2) 単元で身に付けさせたい力

○自分の考えとそれを支える理由と事例との関係を明確にする力

リーフレットをより説得力のあるものにするためには、自分の考えを支え、読み手が納得するような理由や事例を挙げる必要がある。選んだ工芸品を薦める理由や事例が個人的な考えによるものでは、読み手にはその魅力が伝わりにくい。そこで、自分の考えを伝えるために、理由や事例の内容が適切かを読み手の視点から考えたり、話し合ったりする活動を取り入れる。そうすることで、児童は、データや体験、職人へのインタビュー記事など、具体的な事実を理由や事例として挙げることの必要性に気付くことができるだろう。文章の内容やその構成を考える上でも、児童一人一人が自らの考えに対する理由や事例を明確にし、選択することができるようにしていきたい。

○自分の考えが伝わるよう、文章全体の構成や各段落の組み立て、書き表し方を工夫する力

自分の考えが伝わる文章にするためには、「初め」の段落に書いた考えにあった理由や事例を、写真などの図表を入れて組み立てをする必要がある。そこで、ギガタブの「発表ノート」を使って、内容の分類や順序を決める活動をする。具体的には、工芸品について調べたことをギガタブ内で付箋に残していき、調べた情報の中でまとまりごとに整理していく。伝えたい内容を明確にすることで、理由と合わせて構成を考えることができる。また、写真についても『アップとルーズで伝える』で学習した内容を想起させ、どの写真がより文章を相手に伝えやすくするのかを比較検討する時間を設け、妥当性を考える活動を取り入れる。自分が文章の意味を正しく理解していないと、文章に合った写真を選ぶことは難しいため、写真を再考する過程が、自然と文章に対する理解を深めることにつながる。写真選びを通して、文章の中から要点を抜き出し、情報の取捨選択を判断する力を育てていきたい。

5 単元の指導計画

次	時	○学習参観	・指導上の留意点◇評価規準【観点・方法】
一	1	○伝統工芸品とは何か知る。 ○教材文を読み、問いと学習計画を立てる。 ○学習計画を確認し、次時以降の見通しをもつ。 ○単元のゴールを確認する。	・いくつかの伝統工芸品を実際に触れる機会を設けることで、伝統工芸品への興味を引き出せるようにする。 ・工芸品＝工業製品と誤って認識しないよう、「手作業」で作られていることを教材文から捉える。 ・単元全体の見通しをもてるよう、読むことで学習したことを生かして、リーフレットにまとめるという学習のゴールにつなげていくことを共有する。
二	2	○筆者の伝えたいことは何か考えながら読み、文章の構成を捉える。 ○読み取ったことを共有し、筆者の伝えたいことを捉える。 ○写真や例の効果について考える。	・文章の構成を捉えやすくするために、これまでの説明文の学習を想起させる。 ・文章の構成の捉え方が異なった場合は、児童同士で対話をして、考える時間を設ける。 ・「書くこと」につなげるために、写真や例を使った説明効果について考えさせるようにする。 ◇「初め」「中」「終わり」のまとまりに分けて、筆者の伝えたいことを捉えている。 【思・観察、記述】
	3	○まとめごと中心となる語や文を確かめる。	・既習内容の「要約するとき」を確認し、要約に苦手意識のある児童が、自信をもって取り組むことができるようにする。
	4	○筆者の考えを要約する。	・要約につなげるために、筆者の考えや話の中心となる語や文が書かれている叙述に印を付けさせるようにする。
	5	○文章全体を要約する。	・要約することや構成を、リーフレット作りにつなげるために、要約するときのこつや構成を組み立てるときの要点を、振り返るよう声を掛ける。
		○「未来につなぐ工芸品」で学んだことの振り返りを行う。	◇目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 【思・観察、記述】
		○要約するよさを共有する。	◇筆者の考えについての自分の考えを粘り強くまとめている。 【態・観察、記述】
三	6	○説明文の学びを振り返り、書く活動の見通しをもつ。	・学級全体で工芸品の魅力を話し合うことで、工芸品の魅力の捉え方を広げ、魅力を見付けたり、調べることの方向性をつかんだりしやすくする。
	7	○自分が決めた「テーマ」について調べ、分かったこと、考えたことを整理する。	・調べた工芸品の魅力をギガタブの発表ノートにメモとして残させることで、内容のまとめごと分類する活動につなげやすくする。 ・さまざまな資料を活用して工芸品を調べることができるよう、図書館の本やウェブサイトを用意しておく。 ・正確で詳しい情報を得られるよさや、図や写真からイメージを広げられるよさに気付かせるために、インターネットの情報と比べて考えたり、効率よく調べられることを実感させたりする機会を設ける。 ◇工芸品に関する本を読み、必要な知識や情報を選択してメモしている。 【知・観察、記述】

並行読書（自分が伝える伝統工芸品を探すための活動）



	<p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べた情報をまとまりごとに分類する。 ○分類したものの中からリーフレットに載せる二つの魅力を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をまとまりごとに分類できるよう、ギガタブの発表ノートを活用して、画面上で似ている情報をまとめる活動を取り入れる。 ・分類した情報に整合性があるかを確認し合う時間を設けることで、情報の整理の仕方を見直したり、友達の見点を取り入れて再考したりできるようにする。 ・下書きをする際に情報が少なくて書くことができない児童が出ないように、例や理由も入れているよう助言する。 <p>◇書く内容の中心を明確にして、内容のまとまりで構成を考えることができる。</p> <p style="text-align: right;">【思・観察、記述】</p>
	<p>9</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章の構成の仕方と視点を全体で確認する。 ○文章の構成を考える。 ○「中」の下書きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を確認することで、二次で学んだ要約のこつや構成の要点を生かせるようにする。 ・発表ノートの中で付箋を操作する活動を取り入れることで、文章の構成を何度も修正しながら、考えることができるようにする。 ・ギガタブの発表ノートに下書きをすることで、次回の意見交換で修正をしやすくする。 <p>◇書く内容の中心を明確にして、内容のまとまりで構成を考えることができる。 【思・観察、記述】</p> <p>◇文章の構成や書き表し方について考え、粘り強く書こうとしている。 【態・観察、記述】</p>
<p>10 本 時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○意見交換の仕方と視点を全体で確認する。 ・「くわしく書いていないこと」 ・「写真と文章が一致していないこと」 ○「中」にある魅力①について、意見交換する。 ○友達から指摘されたところを修正したり、必要な情報を収集したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のよくない例を提示して全体で修正する活動を取り入れることで、友達の下書きを修正するときの見点を明確にする。 ・明確な事例や理由を文章に取り入れるために、必要な情報を調べたり、修正した内容を再度友達に聞いて改善されているかを確認したりする時間を設定する。 <p>◇目的や意図に応じて詳しく書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p style="text-align: right;">【思・観察、記述】</p>
	<p>11</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「中」にある魅力②について、意見交換する。 ・「くわしく書いていないこと」 ・「写真と文章が一致していないこと」 ○友達から指摘されたところを修正したり、必要な情報を収集したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動を振り返ることで、友達の下書きを修正するときの見点を想起させ、明確にする。 ・明確な事例や理由を文章に取り入れるために、必要な情報を調べたり、友達と確認しながら修正したりする時間を設定する。 <p>◇目的や意図に応じて詳しく書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p style="text-align: right;">【思・観察、記述】</p>
<p>三</p>	<p>12</p> <p>13</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーフレット作成をする。 ○リーフレットを読み返して、推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いのリーフレットをよりよくするための意見交換であることを全体で確認することで、友達が挙げた理由や事例への改善案や代替案を伝えることができるようにする。 ・リーフレットの書き方を、教師のモデルを基にして、全体で確認することで、児童に完成図を想起させ、リーフレット作りに取り組みやすくする。 ・児童同士が自由に話し合える場や時間を設けることで、児童が考えを共有しながら表現の工夫を広げな

		<p>がら、書き表し方の工夫を考えられるようにする。</p> <p>◇自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。</p> <p style="text-align: right;">【思・観察、記述】</p> <p>◇積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫して、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【態・観察、記述】</p>
14	<p>○書いたリーフレットを読み合う。</p> <p>○友達の感想を読み、自分の感想も書く。</p>	<p>・リーフレットを読み合う際の観点を示し、全体で確認することで、児童が互いの文章のよさに気づき、感想を伝え合うことができるようにする。</p> <p>◇文章の構成や自分の考えと理由や事例が関係付いているか、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分や友達の文章のよいところを見付けている。</p> <p style="text-align: right;">【思・観察、記述】</p>
15	<p>○教科書、リーフレット、友達の感想を読み、単元の学びを振り返る。</p> <p>○振り返りを共有する。</p>	<p>・6時間目の学習を想起させ、今回の学習で身に付ける力について全体で共有することで、振り返りの視点を明確にする。</p> <p>・読書の大切さに気付くことができるよう、情報収集を通して、必要な知識や情報を得るには、読書も役に立つことを確認する。</p> <p>◇単元の学習を振り返り、学んだことや身に付いた力に気付いたり、今後に生かしたいことを考えたりしようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【態・記述、発言】</p>

6 研究主題および仮説について

(1) 国語部会の研究主題

確かな学力の育成をめざした魅力のある国語科の学習のあり方
～社会に役立つ国語教育の創造～

本研究の主題である「確かな学力」について、文部科学省は「知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの」と定義付けている。ただ教師が教え込むのではなく、児童自らが「問い」をもって、既習事項を基に考え、協働的に学び合うことでよりよい解決に向かうことで、身に付く。これらを踏まえ、「魅力ある国語科の学習」を考えると、単に「国語の知識を教える教科」と捉えるのではなく、「児童が自ら問いをもち、単元全体で身に付けたい力を明確にし、言葉を通じて自分の考えを深め、他者とつながりながら問題を解決する力を育む教科」と捉える。

副題である「社会に役立つ国語教育」から、国語科で学んだ資質・能力をその教科の中で完結させるのではなく、他教科や日常生活の中でも活用できる力を育むことの必要性が強く感じられる。例えば、「工芸品の魅力を紹介する」活動が、「好きな映画を紹介する」「気になったニュースを伝える」といった生活で使える力になっていくことで、日常生活での会話や将来の職業にもつながり、それが社会に役立つことにつながるのではないかと考える。

(2) 研究仮説

仮説1 児童が工芸品の魅力を伝えたいようになるよう、日本の工芸品に関する資料や実物を教室に用意するなど、伝統工芸品と触れ合う機会を授業時間外にも多く取り入れることで、工芸品の魅力を伝えるために、主体的に考え、どのような表現がよいか、自ら「問い」をもつことができるだろう。

児童が伝統工芸品の魅力を伝えたいと主体的に考えるようになるには、日常的に工芸品に触れる環境づくりが重要だと考える。教室に日本の伝統工芸品に関する資料や実物を用意することで、児童は自然と興味をもち、「もっと知りたい」「誰かに伝えたい」という気持ちを芽生えさせたい。

例えば、教室に房州うちわや南部鉄器、有田焼の器や組子細工の一部などを展示しておくことで、児童は実物の質感や美しさに触れ、五感を通じた理解が深まる。このような環境は、児童にとって「学びのきっかけ」となり、授業時間外でも工芸品に関心を寄せるようになるだろう。

さらに、児童が「どうすればこの魅力が伝わるだろう?」と考えることで、言葉の選び方や構成の工夫に意識が向かい、自ら問いを立てる姿勢が育まれる。「この工芸品の魅力って、どこにあるのだろう」「写真だけでは伝わらない部分を、どう表現すればいいのだろう」という問いが、理由や事例を明確にして書く必要性への気付きにつながっていくと考える。

仮説2 学習内容の系統性を明確にし、意識的に指導することで、児童は習得した知識・技能を活用しながら、構成を意識して書くことができるようになるだろう。

本単元に関わり、「書くこと」において、児童は、自分の意見や考えを述べる文章について、以下のように学習を進めてきた。

学年	○単元名「教材名」・主な学習活動	・文章の構成	学習内容
3年	<p>○例の書き方に気を付けて読み、それを生かして書こう 「すがたをかえる大豆」 「食べ物のひみつを教えます」</p> <p>〈主な学習活動〉</p> <p>①「初め・中・終わり」の内容を整理し、文章全体の組み立てを捉える。 ②「初め」の部分の役割や中心となる語や文を考える。 ③「中」の部分の役割や中心となる語や文を考える。 ④「終わり」の部分の役割や中心となる語や文を考える。 ⑤テーマを決めて調べ、整理する。 ⑥文章の組み立てを確かめる。 ⑦理由や例を挙げて、考えを伝える文章を書く。 ⑧書いた文章を推敲する。 ⑩文章を読んで、感想を伝え合う。</p>	<p>〈文章の構成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」…話題提示 ・「中」…具体的な例 ・「終わり」…まとめ、自分の考え 	<p>○わかりやすい組み立てを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」で話題を示し、内容のまとまりごとに段落を分ける。 ・伝えたいことに合った例を選び、読む人に分かりやすい順序で書く。 <p>〈例を挙げるときの言葉〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、――。 ・例を挙げると、――。 <p>〈接続語〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次に、――。 ・さらに、――。 ・これらのほかに、――。 ・このように、――。
4年	<p>○筆者の考えを捉えて、自分の考えを发表しよう 「思いやりのデザイン」 「アップとルーズで伝える」</p> <p>〈主な学習活動〉</p> <p>①筆者の考えが書かれた文章を見つけて、筆者の考えの伝え方を確認する。 ②段落相互の関係を考える。 ②対比して説明することのよさを考える。 ③筆者の考えに対する自分の考えを原稿用紙に書く。 ④友達と伝え合う。</p>	<p>〈文章の構成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」…話題提示、筆者の考え ・「中」…事例、特徴 ・「終わり」…筆者の考え 	<p>○繰り返し出てくる物や言葉について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し出てくる言葉が、それぞれの場面でどのように書かれているのかを確かめる。 ・場面どうしを比べて、その物や言葉の書かれ方の、同じところや違うところを見付ける。 ・書かれ方の違いから、登場人物の気持

		<p>ちなどの変化を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その物の言葉が、題名とどう関係するかを考える。 <p>【学習に用いる言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「対比」…二つのものを比べて、違いをはっきりさせること。 ・「要約」…話や本、文章の内容を短くまとめること。目的に応じて、元の文章の組み立てや表現を生かしたり、自分の言葉に言い換えたりしてまとめる。
	<p>○書くときに使おう 「どう直したらいいかな」</p> <p>〈主な活動内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2つの文章を比べて読み、推敲の際に気を付けるポイントを確認する。 ② 相手や目的に応じて文章を見直し、書き直す。 	<p>○相手や目的に応じて文章を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容のまとまりごとに段落分けをする。 ・「です・ます」と、「だ・である」をそろえる。 ・読む人が知らない言葉や漢字がないか、目的に合う文章になっているかを考える。

これらの学習を通して児童は、大きく三つの力を習得している。第一に、文章を構成する力である。「初め」で話題提示や筆者の考えを明示すること。「中」で具体的な事例や特徴を挙げて説明すること。「終わり」でまとめや自分の考えを述べることで、文章の締めくくり方を学んでいる。本単元では、「初め」「中」「終わり」の文章構成を土台として、「中」に理由・事例・まとめの関係性を意識した文章を構成することに発展している。

第二に、表現力である。内容に関してどの順序で伝えることが効果的か考えたり、相手や目的に応じた言葉の選び方や構成の見直しを行い、伝わる文章へ推敲したりすることを学んでいる。本単元では、「中」の内容としてどの順序で魅力を伝えるかを考える際、「すがたをかえる大豆」の内容を想起させて、順序によって相手への伝わり方が変わることを確認する。また、出来上がった文章を友達と読み合いながら、よりよい文章に磨き上げられるよう、推敲の学習を想起させるようにする。

第三に、読んだ文章のよさや表現を自分の考えや表現に生かす力である。筆者の考えを読み取り、自分の考えを発信する活動が設定されている。「すがたを変える大豆」では、筆者の考えや書き方を基に、別の食材を使って「すがたを変える〇〇」を書いている。「アップとルーズで伝える」では、筆者の考えを要約し、それに対して自分の考えを書く活動を取り入れている。本単元でも「未来につながる工芸品」を通して、筆者の考えを要約し、筆者の考えや書き方を踏まえて、「工芸品のみりよくを伝えよう」の学習でリーフレットにまとめる活動に発展している。単元のはじめに学習計画を立てる際に、「すがたをかえる大豆」や「アップとルーズで伝える」で学んだことを想起させることで、本単元の学習でも読むことの教材で学んだ経験を書くことの教材に生かしていくことを全体で確認する。

このような系統的な指導を意識することで、児童は「どんな順序で書けば伝わるか」「どの表現を使えば効果的か」といった構成への意識が高まり、文章を書く際の思考力や判断力、表現力が育まれると考える。

また、教師が系統性を踏まえて指導をすることで、児童は「これは前に習ったことだ」「この表現はあの単元で使った」といった学びのつながりを実感し、学びの自覚化が促される。これは、主体的な学びの土台となるだろう。

7 本時について

(1) 単元における本時の位置付け

○目的や意図に応じて詳しく書いたり、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫したりしているかを、友達と意見交換をして再考する。

(2) 本時の目標

○目的や意図に応じて詳しく書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

【思考力、判断力、表現力等】B (1) ウ

(3) 目指すべき児童像

工芸品の魅力が伝わる文章になるよう、自分の考えに対する事例や理由、構成を考えることができる児童

(4) 展開 (10 / 15)

学習活動と内容 ・予想される児童の反応	○教師の支援 ◇評価規準【観点・方法】
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの魅力で「中」の下書きを書いた。 ・「中」の下書きは書くことができたけれど、この書き方で相手に伝わるかがわからない。 <p>2 本時の学習課題を知る。</p>	<p>○前時までの学習を振り返り、「中」の下書きに対する不安感を共有することで、必要感や問題意識をもって本時の学習に取り組むことができるようにする。</p>
<p>「中」を読み合い、み力が伝わる文章になっているか考えよう。</p>	
<p>3 意見交換の仕方を全体で確認する。</p> <p>①くわしく書いていないところをくわしく書く。 ②写真と文章が一致しているか確認する。</p> <p><詳しく書くためのポイント></p> <p>①難しい言葉には、説明を添える。 例「編竹」→「<u>竹を手作業で編む工程である</u>「編竹」」</p> <p>②数を入れる。例「長い間」→「<u>250</u>年続く」</p> <p>③例を入れる。例「いろいろ」→<u>例えば</u>「A」や「B」</p>	<p>○教師が改善の余地があるモデルを提示し、より魅力を伝わるようにするための確認ポイントを話し合うことで、児童から意見交換の仕方や視点を身に付けられるようにする。</p> <p>○リーフレットをよりよくするための活動であることを全体で確認し、友達が選んだ魅力を単に批判するのではなく、改善策や代替案を付箋に残すよう、声を掛ける。</p> <p>○友達と指摘する内容が重複していたとしても、自分の言葉で付箋を残すよう、促す。</p> <p>○写真の効果についても全体で話し合い、文章では伝えきれないことが分かりやすくなることに気付かせ、写真の重要性も意識できるようにする。</p>
<p><写真の選び方></p> <p>①文章の説明にあった写真を選んでいる。 ②言葉だけでは想像しにくいところを写真で選んでいる。 ③「アップ」と「ルーズ」を意識して選んでいる。</p>	
<p>4 友達の下書きに、助言を書いた付箋を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丈夫で長持ち」することは、どのくらいの期間もつのか数字で書いた方がいいよ。 ・100年くらい残っているものがあれば、それを例として入れるのがいいと思う。 ・「細かい模様」だけだと伝わらないから、例があると分かりやすい。 ・「ガラスの色が豊富」というところは、何種類の色があるか書いてあると伝わりやすい。 	<p>○助言を書いた付箋を共有しやすくするために、ギガタブの「発表ノート」上で書いた下書きに付箋を貼る活動を取り入れる。</p> <p>○4人組で付箋を貼る活動に取り組みせることで、複数の意見を基に、自身の表現を再考することができるようにする。</p> <p>○友達の下書きを読み合う際、改善点の見付け方が分からない場合に備え、確認すべき事項を示したチェックリストを用意することで、</p>

- ・安価で手に入りやすいだと、安価が強調されて、あまり魅力に感じない。誰でも手に入れやすいに言葉を変えた方がいいね。

5 友達の意見も踏まえて、再度考えたり調べたりする。

- ・「丈夫で長持ち」することに関して、250年残っている記事があったから、下書きの中に例として入れよう。
- ・細かい模様だと伝わりにくいから、「六角籠目や亀甲など」のような説明と写真を入れよう。
- ・安価で手に入りやすいことだと魅力として伝わりにくいから、「だれでも手に入れやすい」と言葉を変えよう。
- ・「だれでも手に入れやすい」という言葉に変えてみたのだけれど、伝わるかな？
- ・「細かい模様」の写真が「ルーズ」だと伝わりにくいから、「アップ」の写真を使おう。

6 本時の学習を振り返る。

- ・相手が使ってみたいと思えるように、例を入れることができた。
- ・自分が思っていた魅力が友達にはうまく伝わらなかったが、理由を詳しく書いたら伝わった。
- ・〇〇さんは、実際のニュースを例として入れていたので、分かりやすかった。

それを手掛かりに下書きを読み、児童一人一人が改善点を見付けられるようにする。

- 助言をした人に後で質問をすることができるように、人によって付箋の色を変えるようにする。
- 付箋だけだとどの文章に対しての付箋か分かりにくいので、矢印を引くか指摘した言葉の近くに付箋を貼るなど、相手に分かりやすくすることを伝える。

- 個人で活動時間に差が生じた場合、話合いの内容を聞いて不十分なところを教師が指摘することで、伝わりにくいところを、より詳しくできるようにする。

- もっと詳しく調べたいという児童がいたときに備えて、工芸品の資料や国語辞典を用意しておく。

- 友達からの付箋の中でわからないことを質問してから再考したり、直した言葉の是非を質問したりすることができるよう、グループを自由に話ができる場として設定する。

- 同じ意見の付箋が複数あるところに目を向けるよう声掛けをし、自分の文章で特に伝わりにくいところを明確化させる。

- 直すのに時間が足りない児童がいた場合、学習活動外に時間を設けて、考える機会を与える。

- 希望する写真が本やインターネット上で探しても見つからない場合は、教師が事前に用意しておいた写真のフォルダからも探せるようにしておく。

- ◇目的や意図に応じて詳しく書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

【思・記述、観察】

- 意見交換を通して、書き方にどのような工夫をしたかを発表ノートで振り返ることで、本時の学習の成果と課題を明確にし、次時の学習に向けた自身の学習状況を把握することができるようにする。

- 振り返りの中では、書き表し方を「どのように工夫すると伝わりやすくなったのか」、「友達のよいところ」を考えさせるようにする。

- 次回の学習内容を確認し、リーフレット作りへの意欲を高める。